

# 考えをみよ。労働力のこよ。

農作業を円滑に進めるため  
労働力不足解消に向けて人手や薬剤で補う手段を  
もう一度振り返ってみたいと思う  
生産量の維持・拡大に向けて産地一体となって考えてみよう

## 労働力確保に向けて

近年、地球温暖化に伴い、リンゴの生態の進みも早いように感じる。農作業の遅れないよう計画的に進めることは基より、労働力不足が懸念される場合は、その対応も急務である。

当JAにおいては、援農隊マツチング支援事業等の取組みを強化しているが、援農者を受け入れる農家の対応も求められている。それは、近年、農作業経験者を確保することが困難な状況にあることから、未経験者を育てることを前提に受け入れ、今後の労働力確保に繋げていくことが必要となって

きているからだ。今、私たち産地

には「育成と働く環境整備」が必要とされており、雇用される側のことを今まで以上に考えなくてはならない時代に直面している。そもそも、農作業を手伝いたいという人が少ないのは、今にわかったことではないはずだが、人手を確保するために私たちが出来ること

の可能性は十分にあるということだ。簡易的な体制整備や賃金の見直し、労働者の育成に係るコミュニケーションの向上次第で労働環境ががらりと変わるのだ。援農者の中には、「農業の右も左もわからないが、農業を手伝ってみたい。」「農業を手伝いたいけど果たして

自分は農家の力になれる

かわからないので不安だ。」と、いった意見もある。これをサポートできるのは、やはり園主であり、今後、継続的に労働力を確保していくためには「人材育成」が必要不可欠ではないのだろうか。その対応一つで、「あそこの園地ならまた来年も手伝いに行きたい。」という気持ちになるのではないか。園地体制整備については、トイレや休憩及び昼食等の簡易的な施設の有無で求人募集にも差が見られると感じる。賃金に

ついて、当JAの荷造り作業員

青森朝日放送「メッセージ」一場面より



募集のように賃金引き上げの実施で人員確保ができており、若い人たち（特に大学生など）は、積極的に働いているのも事実である。また、この賃金引き上げの目的とは別に、弘前市の「農作業支援雇用対策支援事業」の活用も視野にいられたらきたい。これは、前段にもあるように、「人材育成」に



農家の助っ人「援農隊」

## 農作業支援雇用 対策事業の活用

弘前市では、市内在住のりんご農家が人手不足解消のため、新規に作業員を雇用した場合にその研修期間に要する賃金に対して補助事業を実施していることからご活用いただきたい。

### ◆補助対象経費

摘果・袋掛け・袋はぎ・葉取り玉回し・収穫の5作業について最大5日間までの研修期間中の賃金。

### ◆補助金額

2分の1以内（上限は3,000円/日）

※詳しくは弘前市りんご課又は当JA農業振興課まで。

要する園主の負担軽減を目的とした支援事業であり、今後の労働力確保に向けた取組として期待されている。農作業未経験者の育成に掛かる時間や賃金の軽減には魅力的な事業であり、多くの人にこの事業を活用していただきたい。また、明るい農業の未来のために「育てる」大切さも実感していただきたい。今後、生産量の維持・拡大に向けて必要不可欠な課題となっていると言っても過言ではないのだから。

また、様々な業種がこの世に存在する中で、求人募集の表記についても、働く環境のアピールを忘

れずに行うことで改善が図られるはずだ。「見える化」の時代であることから、今後は写真等の活用で安心して働いてもらえるように自分自身の園地の特徴を出していることも工夫の一つである。時代は、私たち産地がもっと多くの人に手助けしてもらえようと努力しなければならぬときを迎えている。

## 薬剤による省力化

人手不足の問題に直面している一方で、薬剤による省力化等を視野に入れて取り組むことも考えていきたい。人手が多く必要な摘果・摘果作業などは、薬剤の特性をしっかりと把握することで、より効果的な効果を生み出す。

摘花についてはエコーキーの使用が効果的だ。特に開花量が多く、開花中の好天による結果が十

分と見込まれる時に実施すれば効果が高い。また、摘果についてはミクロテナポン水和剤85の使用が効果的だ。品種によってそれぞれ散布時期が多少異なることから、品種ごとに使い方を考慮する必要がある。ミクロテナポン水和剤85は、高温時ほど効果の発現が早まり、結実量が多い年ほど効果が高いことから有効的に使用していただきたい。いずれにしても、高品質リンゴ生産に向けて、早期適正着果を目標に取り組むべき点である。詳しくは当JA振興課にお問い合わせください。

## りんご高密度植わい化栽培

近年、新規就農者向けに早期多収などで注目を集めている「りんご高密度植わい化栽培」。この栽培方法は今、世界りんご産業の標準技術のようになってきていることは広



高密度で労力軽減へ

報11月号で紹介した通りである。積雪量や野ネズミ被害など、園地の置かれている環境も考慮していかなければならないが、農業未経験者でも容易にリンゴをつくることを可能としている栽培方法である。これは、世界のリンゴ産業における大量生産を可能とするための方法の一つでもあり、多くの労働者の作業効率を向上させている。つまり、農作業未経験者でも容易に作業ができるという事は、短時間で栽培技術を習得できるということ。これは、労働力不足が深刻化する中で園主のみならず雇用される側も単純作業でリンゴ生産を円滑に進めることが可能ということではないだろうか。育成に掛かる時間の短縮や作業効率の向上を視野に「りんご高密度植わい化栽培」の導入も考えていくのも一つの手段である。

◆ ◆ ◆  
私たちは今、産地力強化に向けて高品質で食味重視のリンゴ栽培を掲げている。このようなか中で、労働力不足解消への取組みは大きな課題であり、今後も精査していく必要があると云えよう。